



第2章 被災状況

- 1 堤防の決壊状況
- 2 浸水の状況
- 3 土砂災害
- 4 過去の浸水

第2章 被災状況

1 堤防の決壊状況

7月6日から7日にかけて国管理河川の小田川の堤防2か所、県管理河川の末政川、高馬川、真谷川の堤防6か所が決壊した。堤防の決壊により真備地区全体面積の約3割にあたる1,200 haが浸水し、深さは約5mに及んだ。多数の家屋等が浸水し、市内で亡くなった方は52人（災害関連死を除く）、全壊をはじめとする住家被害は、5,977棟（平成31年4月5日現在）に上った。

1 真備地区被災状況



31 ページ上段写真の○から矢印方向を撮影（小田川堤防決壊箇所、左側は県立倉敷まきび支援学校）

2 国管理河川（小田川）

(1)高馬川合流付近

(以下、堤防の決壊延長をL=100mなどと示す)



撮影日時:7月7日 14時-17時頃(上空100m)

[高馬川合流付近 堤防決壊箇所]



写真提供:国土交通省

撮影日時:7月8日 14時頃

(2)内山谷川合流付近



撮影日時: 7月7日 14時-17時頃(上空100m)

[内山谷川合流付近 堤防決壊箇所]



上段写真の○から矢印方向を撮影(撮影日時: 7月9日)

3 県管理河川

(1)末政川



撮影日時:7月7日 14時-17時頃(上空100m)

[末政川堤防決壊箇所]



上段写真の①から矢印①方向を撮影



上段写真の②から矢印②方向を撮影

撮影日時:7月7日 7時頃

[末政川堤防決壊箇所]



33 ページ上段写真の **B** から矢印③方向を撮影 撮影日時: 7 月 11 日 13 時頃

(2)高馬川



撮影日時: 7 月 7 日 14 時-17 時頃(上空 100m)

[高馬川堤防決壊箇所]



34 ページ下段写真の○から矢印方向を撮影 撮影日時:7 月 8 日 18 時頃

(3)真谷川



撮影日時:7 月 7 日 14 時-17 時頃(上空 100m)

[真谷川堤防決壊箇所]



35 ページ下段写真の○から矢印方向を撮影 撮影日時:7 月 10 日 14 時頃

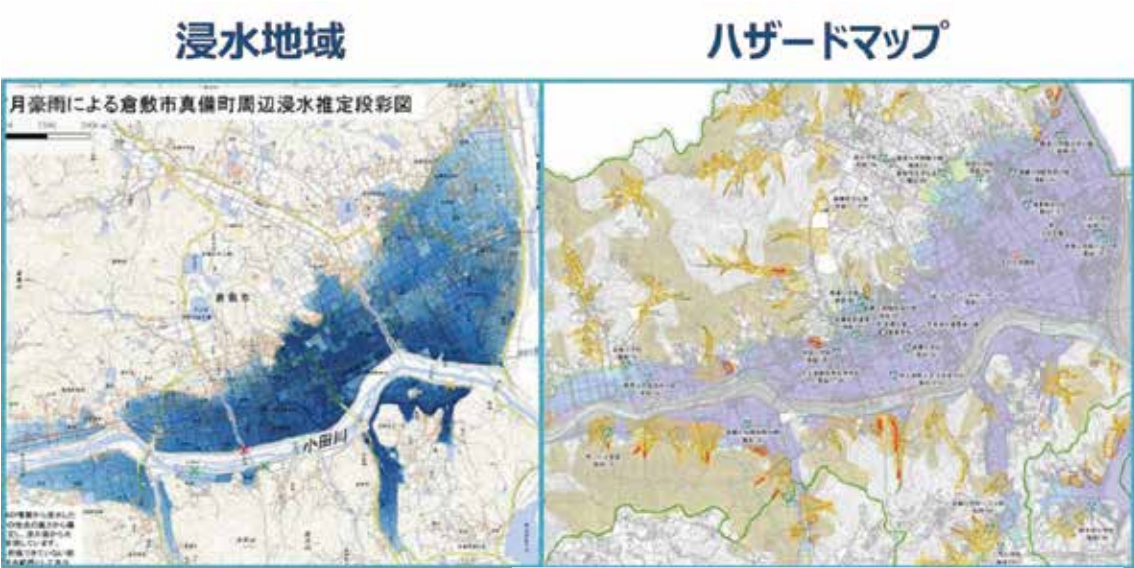
2 浸水の状況

1 真備地区の浸水状況

(1)浸水域・浸水深

区分	規 模
浸水域	約 1,200 ha（真備地区全域：約 4,400 ha）
浸水深	最大約 5m（推定値）

平成 30 年 7 月豪雨による真備地区の浸水地域は、平成 29 年作成の倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップ（真備・船穂地区）の浸水想定区域とほぼ重なっている。



出典：国土交通省国土地理院
平成 30 年 7 月豪雨による倉敷市真備町周辺浸水推定段彩図

(2)浸水の状況



①～⑪：写真の撮影方向を示す

①辻田付近の上空から南西方面を撮影



撮影日時:7月7日 14時-17時頃(上空100m)

②南山橋上空から総社方面を撮影



撮影日時: 7月7日 14時-17時頃(上空100m)

③南山橋上空から北方面を撮影



写真提供: 国土交通省

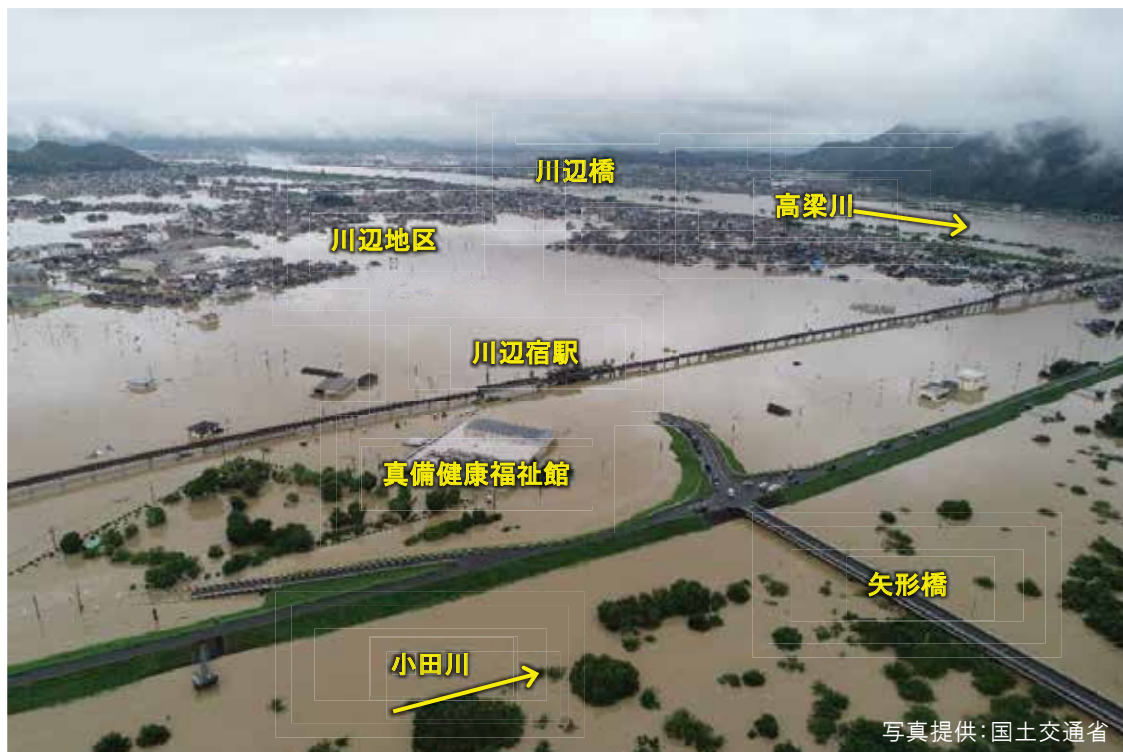
撮影日時: 7月7日

④矢形橋上空から南西方面を撮影



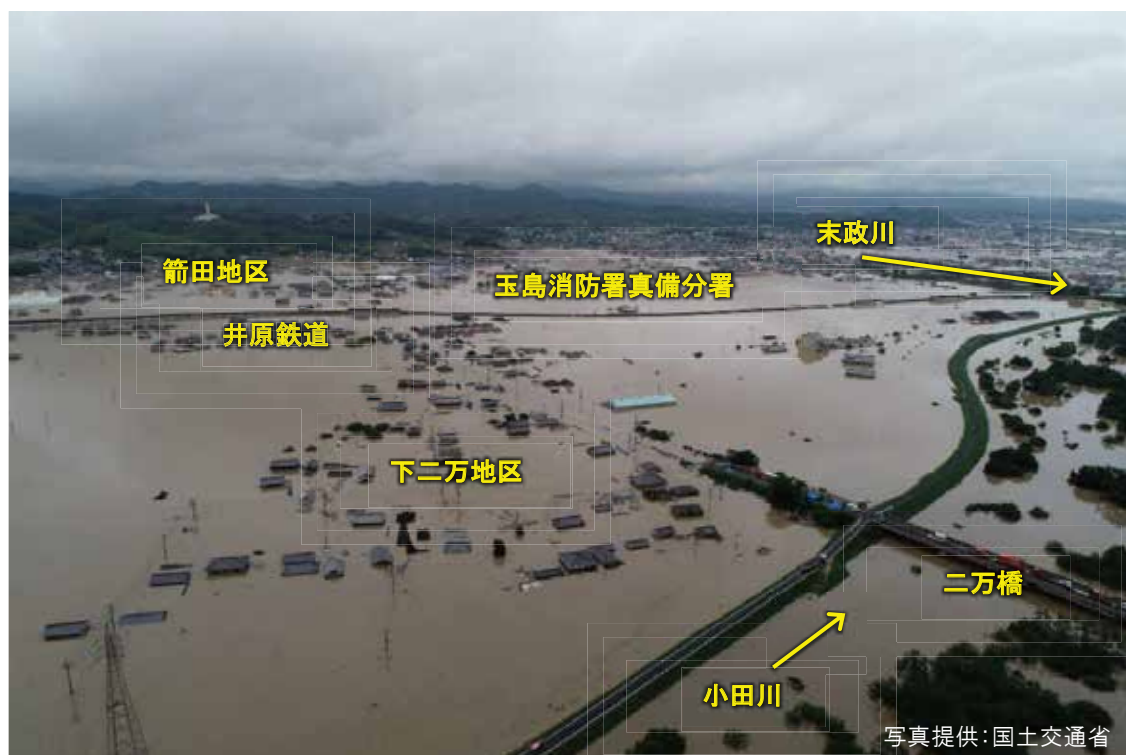
撮影日時: 7月7日

⑤矢形橋上空から北方面を撮影



撮影日時: 7月7日

⑥二万橋上空から北方面を撮影



撮影日時:7月7日

⑦二万橋上空から北西方面を撮影



撮影日時:7月7日

⑧福松橋上空から北東方面を撮影



撮影日時:7月7日

⑨福松橋上空から北西方面を撮影



撮影日時:7月7日

⑩宮田橋上空から東方面を撮影



撮影日時:7月7日 14時-17時頃(上空100m)

⑪宮田橋上空から南西方面を撮影



撮影日時:7月7日 14時-17時頃(上空100m)

2 まちの状況

小田川、小田川支川の末政川・高馬川・真谷川の堤防の決壊により、真備地区約4,400haのうち約1,200haが浸水。浸水地域では、お亡くなりになられた方々をはじめ、大規模な住家・事業所・農業被害の発生とともに、広範囲でのライフラインの停止など、未曾有の大災害となった。住宅の2階や屋根の上などに取り残された2,350人以上が、自衛隊、消防、警察等によって救助・救出されるとともに、5,500人（7月7日）を超える市民が避難所へ避難した。

また、市内では倉敷地区で東町・吉岡・中庄、玉島地区で玉島阿賀崎・玉島長尾・玉島服部地区などでも床上浸水が発生するなど、真備地区以外でも浸水により大きな被害を受けた。



真備地区二万橋付近(7月7日)



真備支所から撮影した救助隊



真備支所から吉備真備駅方面を撮影



撮影日時: 7月7日 14時-17時頃



小田川堤防(上の写真)の○の部分から、矢印の方向を撮影したもの(7月7日)



吉備真備駅北側周辺(7月7日)



箭田小学校付近(7月7日)



浸水により漂流物が散乱する
箭田地区の様子(7月7日)



真備陵南高等学校付近(7月7日)



真備浄化センター付近(7月8日)



まきびの里保育園付近(7月7日)



上写真: 矢形橋付近から北方向を撮影(7月8日)

左写真: 高馬川と国道 486 号の交差点付近から西方向を撮影(7月8日)



高梁川緑地(7月7日、片島町)



生坂二日市線(7月8日)



浅原川(7月7日)



市保健所東側道路(7月7日)

3 土砂災害

市内の山間部では広江、連島、児島、玉島地区で土砂災害が発生し、住家・道路への土石の流入、道路崩落、林地の崩壊、電柱の倒壊などの被害を受けた。

1 広江地区

7月7日、広江地区のコモタウン広江団地の裏山の土砂が約500mにわたって崩れ落ちる土砂災害が発生。住家被害は全壊2棟、大規模半壊1棟、半壊3棟、一部損壊4棟に上った。付近の住民は、福田南中学校などに避難し、一部の被災者はその後、広江中央公民館へ移り避難生活を送った。



○：土砂災害発生箇所



コスモタウン広江の土砂災害の様子(空撮)



土砂災害当日の夜の様子

崩落状況



コスモタウン広江の土砂災害 被害状況

2 連島地区



旭丘小学校西側付近



連島町西之浦 146 号線

3 下津井地区



城山線(下津井城跡南側)



才ノ峠吹上線

4 弥高山地区



弥高線(玉島・弥高山)

4 過去の浸水

平成30年7月豪雨の被災地の真備地区は、明治26年、昭和47年、51年にも大きな浸水被害を受けており、小田川を管理している国土交通省において治水対策が検討されてきた。

1 明治26年

高梁川水系において、正確な被害統計が残る洪水としては既往最大規模。高梁川本川や支川のいたところで決壊し、未曾有の大災害となった。

この災害を契機に、高梁川第1期改修工事が行われた。期間は明治40年～大正14年で、東高梁川と西高梁川を西の1本に統合し、東高梁川を廃川した。



明治26年 堤防決壊の復旧状況(真備町川辺)



明治26年 家屋倒壊状況(真備町川辺字辻尾)

2 昭和47年

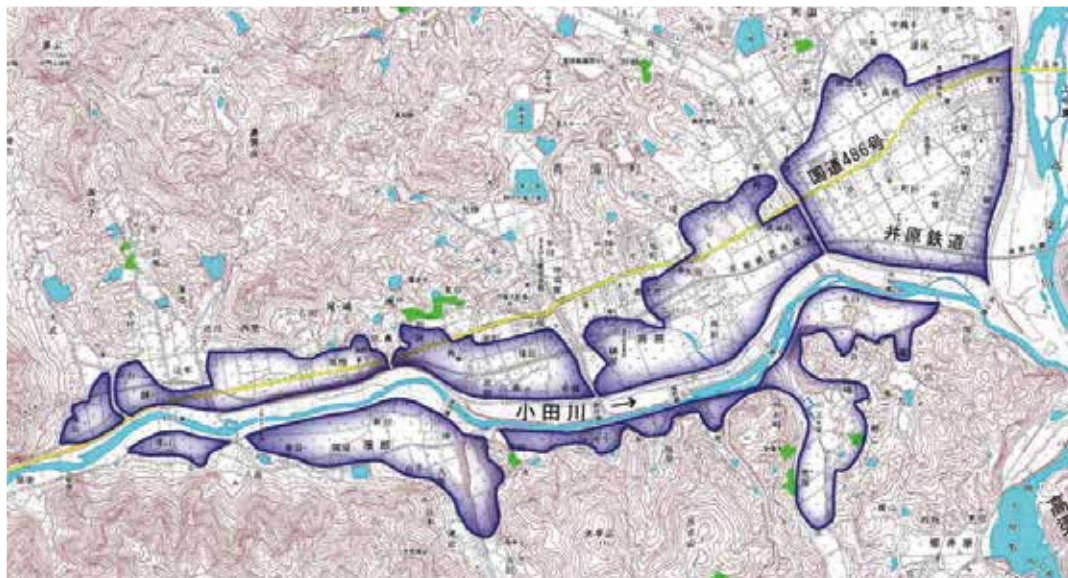
昭和47年7月洪水では、中国地方各地で大規模な浸水となり、小田川では堤防が決壊し、未曾有の大災害となった。



昭和47年 小田川の決壊

3 昭和51年

昭和51年9月には、小田川の堤防決壊はなかったが、大規模内水氾濫が発生した。浸水面積、被害規模では昭和47年7月洪水を超える未曾有の大災害となった。



昭和51年9月 浸水区域図



昭和51年 内水による浸水状況(真備町川辺)